

東京五輪会場

# 田原にサーフィン誘致を

## 山下市長ら知事に支援要請

2020年東京オリンピック・パラリンピックの追加競技候補に挙がっているサーフィンの競技会場を、田原市赤羽根町の太平洋ロングビーチへ誘致することを目指している山下政良田原市長ら関係者が18日、大村秀章知事を訪問、県の支援を要請した。訪れたのは、山下市長のほか、加藤昌高・渥美半島観光ビュロー誘客部会長（元日本サーフィン連盟副理事長）、山本浩史（田原市選出）、渡会克明（豊橋市選出）、岡明彦（緑区選出）各県議、辻史子田原市議ら8人。

山下市長は、持参した資料を基に、太平洋ロングビーチが、年間を通じてサーフィンに適した波がきて、全国のサーファーに知られていること、これまで世界大会や全国大会を何回も開催した実績があり、外国人を受け入れる宿泊施設、駐車場、トイレなどの設備も完備していること、中部国際空港から車で1時間50分、東京から豊橋まで新幹線ひかりで1時間半、豊橋から会場まで車で40分とアクセスが良いことなど、太平洋ロングビーチで開催するメリットを説明した。

また、同オリンピックの優勝者に贈るビクトリーフーケに日本一を誇る渥美半島のマム（菊）を活用することや、トライアスロン競技の事前合宿にも適した環境が整っていることを提案。大村知事にJOCなど関係方面への働き掛けを要請した。

これに対し、大村知事は「追加種目の決定は来年7月。会場の決定はそれ以後になるが、サーフィンが県で開かれることになれば県としても光栄」と答え、前向きに検討する考えを示した。

（後藤康之）



大村知事に、サーフィン会場誘致支援を熱心に要請する山下田原市長ら

また、同オリンピックの優勝者に贈るビクトリーフーケに日本一を誇る渥美半島のマム（菊）を活用することや、トライアスロン競技の事前合宿にも適した環境が整っていることを提案。大村知事にJOCなど関係方面への働き掛けを要請した。